老いても安心して暮らせる町に
発行／八潮市議会議員・やざわえみこ（市民と市政をつなぐ会）
やざわえみこ通信
特別号
2021.8.20
〒340-0823 八潮市古新田 923　TEL（FAX共通）048-997-9632
E-mail：e-yazawa@smile.ocn.ne.jp　https://www.e-yazawa-web.net/

老いても安心して暮らせる町へ

八潮市議会議員
安心度120%
市民派 無所属

やざわえみこ

やざわさんに期待します

高木 宏子 後谷診療所医師

「やざわえみこ通信」も今回84号となりましたが、これは平成9年の初当選以来、議員を志した初心を忘れず、やざわさんが地道に活動してきた証です。24年間、八潮市政だけでなく、県、日本、世界の動きにも目を配り、皆さまに色々な情報をお伝えして参りました。市議会を傍聴して、議会でのやざわさんの活躍、存在意義を知り、支持者となられた方も少なくありません。コロナ感染下、色々な課題が生じてくる現在、やざわさんの変わらぬ活動を期待し、応援します。

上田 潤子 塾講師

やざわえみこさんは八潮市議会議員として6期、四半世紀近くにわたり八潮市民のために尽力されてきました。常に新しい視点に立ち、その時代に起こる問題点に取り組んできました。その活動は一貫して市民のための生活者目線であり、それが私たち市民の代弁者として大きな安心感を与えてくれました。更に、今培ってきた経験を次世代に伝えようとしています。八潮唯一の市民派のやざわさんに応援をお願いいたします。

三浦 まり 上智大学法学部教授

やざわえみこさんは長年、地域のために、議会が開放的になるよう尽力されてきました。まだまだ取り上げられることの少ない女性や子どもたち、病気や障がいを抱える方の視点に立って、積極的に議会活動を続けてこられました。生理の貧困問題では全国に先駆けいち早く動かれ、今は学校給食の課題にも取り組まれています。やざわさんのように真面目で、話を聞いてくれる議員がいる八潮市が羨ましく思うほどです。経験豊かなやざわさんが、地域の課題解決に向けて、市民に寄り添った活動を再び展開してくれると期待しています。

赤松 良子 クオータ制を推進する会代表（元文部科学大臣）
三井マリ子 元都議・女性運動家
藤方 博之 東北大学助教・八潮市出身
岩井 紀穂 VISION!～for Transgender
野田 静枝 障害者就労支援講師・フラワーデモ埼玉呼びかけ人
秦　好子 環境防災コンサルタント

やざわえみこのprofile

- 群馬県太田市出身。明治大学法・文卒
- 明治大学大学院文学研究科博士課程満期 退学
- 元明治大学文学部非常勤講師
- 平成9年、地盤・看板・カバンもない中、立候補・当選。現在6期目。市民と市政をつなぐ会代表。『老いても安心して暮らせるまち』を目標に、常に市民目線で、ネットワークとフットワークの軽さで精力的に議員活動を行っている
- 女性議員を増やす活動や女性問題（貧困、非正規、DV等）にも積極的に取り組んでいる
- クオータ制を推進する会役員
- 元全国フェミニスト議員連盟共同代表（現世話人）
- 元中川小 PTA 会長。
- 共著『市川房枝参画センターで学ぶ47人の挑戦』『議会はあなたを待っている』
- 4人の子育て経験あり

頒布責任者：高木宏子 八潮市南後谷751　印刷所：（有）マサコカンパニー 東京都八王子市松が谷54-2-405

やざわえみこ 7つのお約束

お約束 1 安心して老いることができるまちづくり

八潮市の高齢者の50.22%（令和2年10月1日現在）は、後期高齢者（75歳以上）です。平均寿命が延びることは良いことですが、高齢になれば認知症は特別なことではなく誰でもなる可能性があります。

私は、（仮称）八潮市認知症とともに生きる希望条例を策定し、どんな場所で暮らしていても自分らしく生きる希望を持ち、意思と権利が尊重され、自らの力を発揮しながら、安心して老いることができるまち、安心して暮らし続けることができる町をつくります。また、ケアラー（介護者）、特にヤングケアラー支援にも取り組みます。

お約束 3 市民が納得できる税の使い道を！

皆さまは、払った税金が有効に使われていると思いますか？ 令和元年度の市民1人当たりの地方債現在高や基金現在高は以下の通りです。

令和元年度末の市民1人当たりの地方債・基金現在高

	八潮市	県内40市	類似団体（注）
地方債現在高	222,210円	281,557円	256,161円
基金現在高	67,844円	51,863円	86,452円

今後、高齢化に伴う扶助費の増大は避けられず、新庁舎建設、南部地区の学校建設、区画整理事業や公共下水道事業などにも多額の財源が必要です。これまでも、公共施設へのPPS（新電力）導入や自販機設置場所の入札等を提言し、自主財源を増やしてきましたが、「入るを量りて 出ずるを制し」、将来につけを残さない健全財政に努めます。

お約束 5 車いす・ベビーカーからのまちづくり

高齢者や障がい者の通院や外出支援のボランティア経験から、「いつでも、どこでも、だれでも」公共料金並の費用で「ドア・ツー・ドア」のサービスが必要です。特に、高齢者が多い八條地区や古新田地区の公共交通の充実は喫緊の課題です。いつでも誰でも自由に外出できる公共交通網の整備に取り組みます。

お約束 7 緑を次世代に！SDGsのまちづくり

地球の気温上昇による異常気象や増える自然災害に危機感を覚えています。今年4月26日、八潮市は近隣5市1町と共同で「カーボン・ゼロシティ宣言」をしました。宣言だけに終わらせず、実効性ある施策を推進し、再生エネルギーを中心とした持続可能な環境を次世代に残します。

今年は福島第一原発事故から10年目、原発に頼らない安心できるエネルギー政策へ転換させます。

お約束 2 男女が多様な生き方を選択できるまちづくり

男女ともに「仕事も家庭も子育て・介護も」一緒に担うことが当然と考える人が増えており、そのための環境整備（保育所の増設、学童保育の整備、延長保育の充実）は行政の責任です。働きながら4人の子育てをした経験を活かし、すべての子育て世代に多様な支援策を充実します。これまでも学童保育の保育時間の延長、保育所の使用済み紙おむつの持ち帰り廃止、新生児聴覚検査費の公費助成等、保護者の負担軽減に努めてきましたが、さらに保育所に子どもを預ける保護者にとって日々の負担となっている制度を改革します。また、パートナーシップ宣誓制度を早期導入し、トランスジェンダーを含むすべての人が自分らしく暮らせるまちづくりを実現します。

さらに新型コロナウイルス感染症の流行で、生活困窮や家庭内などの悩みが深刻化しており、女性の貧困が増えています。「働きづらさ」「生きづらさ」を抱える女性たちに寄り添いながら、多様な支援策を推進します。

お約束 4 市民と一緒に考えるまちづくり

市民との協働によるまちづくりの前提は情報公開です。「密室・不透明」は廃止。まちづくりの主役である市民一人ひとりの声が反映され、わかりやすい市政をめざします。

また、市民感覚が通用し、多様性な声が反映されるよう引き続き議会改革にも取り組みます。

お約束 6 多様な個性と能力を育む教育の実施と日本一の学校給食の実現

未来の八潮を支える主役は子どもたち。子どもたちの感性を育む学校図書館や、体を鍛えるスポーツ施設の充実等、学ぶ子に応える教育環境整備の充実に努めます。民間委託による学校給食で大規模な食中毒事件が発生し、多くの被害者がでました。学校給食法第2条にある7つの「学校給食の目標」の達成はもちろん、地産地消、有機農産物を取り入れ、安全で美味しい「日本一の給食」をめざします。

連絡先

〒340-0823 八潮市古新田 923
TEL/FAX 048-997-9632

E-mail: e-yazawa@smile.ocn.ne.jp
https://www.e-yazawa-web.net/